

語り部の経営者たち

ジャーナリスト 中川明紀

得意の簿記を生かして 中央大商学部へ合格



大学在学中は写真部に在籍した



ダイオーズ 大久保真一 社長 80歳

②

定を獲得したのである。「三越に受かったことで、私はさらに自信を持てるようになりました。そして、自分をもっと試してみたいと大学への進学を考え始めたのです」

当時は商業高校から大学への進学はまれで、受験勉強もしていなかった。しかし、調べてみると中央大学の経済学部は受験科目に簿記がある。3教科のうち得意の簿記と数学で満点を取れば、残りの1科目がダメでも受かるかもしれない。そう考えた大久保氏は試験勉強に取り組み、合格を勝ち取ったのである。

「将来を見据えて中央大学を選んだものの、合格したことで大阪修業はなくなりました。父は『米屋は俺の代でおしまいだ』って落胆してましたね」

卒業した京橋商業は、三菱商事・三井物産をはじめとする商社や銀行など一流企業からの信頼も厚く、毎年何人も生徒が就職していた。教頭は、これが大久保氏の行為によって「教師に牙をむく生徒がいる学校だ」と就職に影響を及ぼすというのである。「教頭の態度に発奮した私は、それなら自分が一流企業に受かってやろうと決心しました。そして、当時の商業におけるトップ企業だった三越を受けることにしました」

高校に進学した大久保氏だったが、当初は予定が3年ずれただけで卒業後は大阪に奉公に出るつもりだった。しかし、高校生活を送るにつれて心境が変わっていく。

「商業高校なので簿記の授業があるんですが、ずっと家業を手伝っていたのでスムーズに頭に入ってくるんです。テストも常にトップで、先生のミス指摘して褒められることもありました。自分の実力が認められたようで自信がきましたね」

一方、クラブ活動では当時増えていた写真の愛好家

を集めて写真クラブを設立。その功績から文化系クラブの連合会会長を務め、さらには生徒会議長にも就任した。

しかし、3年生の時にトランプに見舞われる。「夏休みの林間学校、臨海学校の宿泊先の宿から教頭先生が賄賂をもらっていることが発覚したのです。私ました」

入社試験で三越の内定を獲得したが…

学校には三越の推薦枠があったが教頭との一件でもらうことはできない。大久保氏は入社試験を受けさせ、根負けして面接を承諾。見事、商業のトップ企業の内定を獲得した。

アサヒグループHD マッチングワールド ダイオーズ

(つづく)